

2013 年度年間テーマ — 「いい人生だったね」と言えるように —

総会と交流会

2013 年 3 月 9 日（土）10 時～12 時 30 分 参加者 30 名

当日は厳しい寒さから一足飛びに春が来たようなおだやかな日和に恵まれました。今年小林邦夫さんが議事の進行係を務めて下さり、その手際よさに活動報告、会計報告、予算の提案は順調に進みました。そして次年度は「いい人生だったね」と言えるように・・・を年間テーマとすることを参加者全員で確認しました。

交流会では、この会の顧問である元愛知病院副院長の安江満悟先生のお宅を、大澤、柴田、橋詰さんが訪問し、その生活ぶりのスライドを観ながら報告して頂きました。安江先生は現在お一人で和歌山



県那智勝浦町の豊かな自然の中に溶け込んで暮らしていらっしゃる。食堂にはいつ死んでも後悔がないように誰にでもわかるように先生の遺言書が大きく貼ってあり、その姿勢に心打たれました。

最後にみんなで今自分が大切にしていることを一言ずつ発言しました。家族、友人、趣味とその仲間、自身の健康などいろいろありますが、こうして参加できることをそれぞれ感謝しました。（阿部）

（新旧の遺影が並んだ食堂）



— 安江先生の幸せな日々 — 大澤志紀

先生の所に行く前にパソコンで、先生を検索してみた。

田舎暮らしをはじめた動機

『医学の進歩に伴う医療需要の異常な増大により医療が崩壊すると予見し、自然回帰のメッセージを発信したかった。そのため、自然と一体になり、共存することができる自給自足・有機無農薬農業を推進することにしている。ここ熊野では、この世の極楽浄土を体験できると信じてやまない。』

田舎の老人医療についての考え

『最新医学と豊かな自然を両方とも満喫することは不可能で、田舎暮らしにはそれなりの覚悟が必要。田舎暮らしをしていると、最新医学の世話にならなくてもけっこう元気で長生きできる。救急車がきて、すぐに救急医療の恩恵にあずかれる土地ではないが、この地で得られる幸福で充分採算がとれる。いわゆる「ピン・ピン・コロリ」が実現できるのが田舎です。「老化は病気ではない」と考え、自然なことととらえて、医師として過剰な医療期待に振り回されることがない。』

本当にこの言葉どおりの生活を実践してみえた。まず先生考案のトイレは、便器が2つ、用を足した後、4～5 cmに切った干し草を1握りパラパラとまく、拭いたトイレットペーパーは蓋付き容器に入れる。そして、1年置いて有機肥料に、その間もう1つの便器を使う。一見すると、普通の洋式

トイレ2つで、きれいで臭いもない。するのは干し草の匂い。 さすがです。そしてトイレの外には、
沈丁花が植えられ隅々まで先生の気配を感じた。



庭には、柿、いちじく、キュウイ、アケビ、ハッサク、シークワサー、
棘なしたららの芽、など沢山の木々、ふきのとう、ブロッコリ、さやえんどう
など沢山の野菜と果物。立派なにわとり小屋もあった。

食事は杉の枝を乾燥させたものと、コロコロランド（遊び場）で切った
まきで、アッという間に火をつけ炭を入れ、外でバーベキュー。自然に優し
く、まさに共存。先生の流儀は、シークワサーの絞り方から、天ぷらの揚
げ方、食器の洗い方まで、すべて理に適っていた。

2011 年 9 月 4 日の台風による土砂災害の爪痕がいまだ残っている中で、生活する
人々を感じたり、なぜ和歌山に原子力発電がないのかというお話なども聞きました。
外に出れば棒で突けば取れそうな星、ロックキャビンの窓から見える朝焼け、鳥達
の声、川や風の音、ゆっくり流れる時間、美味しいご飯とお酒。正に天国の先取り。
安江先生 75 歳キラキラ輝いていた。



—初めの一步— 柴田由紀子

突然決まった和歌山県にお住まいの安江先生訪問。

まだこの会に入って四年も経っていない私は、お話の中で時折登場する安江先生が、
どんな方なのか確かめたくて…迷うことなく「行きたいです」と手をあげました。
先生の家での一泊二日は、あっという間。

二年前の台風のあとを案内された時は、びっくりしました。

間伐をされずに育った杉は、根を張る場所を失いながら、高く高く育ち、自然の猛
威に簡単に倒されて流されてしまっていました。

先生は人間の作った林を元の森に戻そうと、季節を感じるいろいろな木をたくさん植えられ、山には
子どもたちが遊べる工夫もされていました。

私は先生と一緒に丸太を運び、カマで皮をむくことを教わり、ベンチを作るお手伝いをしながら…林
が森になったところを見届けられなくても、誰かが始めなければいけないのだと先生の姿やお話から学
びました。



初めの一步。

簡単そうでとても難しい一步を歩いておられる安江先
生。

先生に出逢えて本当に良かった。

今回の旅行は、私のこれからの人生の中で大きな財産
になりました。

今、何をしたいのか！何をすべきなのか！まさに“今を生きる”を実行されている
安江先生、本当にありがとうございました。

今回、植樹した“^{えのき}榎”の成長を見に行きます。



（会のために用意してくださっていた榎の苗木）

【感想】

- ・一年に一回でも、皆さんの顔が拝見できれば、それだけで元気になります。一日一日を大切に後悔のない自分らしい生き方をしていきたいと思いながら暮らしています。
- ・安江先生の暮らしの様子が変化しているのを観て、聞いて会いに行きたくなりました。在宅での最後を考えて行こうと思っています。
- ・久しぶりに素晴らしいお仲間に出会えてうれしく思いました。総会議事は盛り沢山のみなさまの活動ぶりがよくわかり敬服します。交流会に入り「私が大切にしてきたこと」安江先生的那智勝浦での仕事、生活を通して何を大切に生きていけばよいかについての話し合いは楽しいものでした。一年間皆様のご活躍を祈っています。
- ・勝浦は私が手まり（びんの中へ入れる）勉強に若い頃いったところです。安江先生の人を迎えることは細かい心遣いが計画的なおもてなしのこと、自然の中の美しい風景に魅せられました。
- ・一回でも多く参加して勉強をしていきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。
- ・総会にたくさんの方が来ていただけて、お蔭でミシン縫いの会員の方に会えて良かったです。
- ・心の中に優しい風（愛）を与えてくださりありがとうございました。地球の全てのものと共に生きる人間優位ではないこんな生き方ができたら「いい人生だったね」と最後を迎えられるでしょう。
- ・いつも温かい雰囲気の中で居心地の良さを感じています。もっともっとお話ししたいです。
- ・みなさん本当に頑張って見えるんだなあと、力もらえました。
- ・大切にしていることの話の中で、印象に残ったのは90歳になられるおばあちゃまが、絵を描き始めたというお話の中で、いくつになっても“今が一番若い”からどんなことを始めるのに遅いということはないと聞き“もう”ではなく“まだ”なんだという気持ちで今を過ごしたいと改めて感じました。とても和やかな総会に参加できて良かったです



・奥様の特大な手の平でやんちゃに過ごされる先生の孫悟空ぶりを拝見できて、うれしかったです。私たち3人も雲に乗っかり勝浦を探検し、今とこれからのことを考えることができて幸せでした。先生の温かく完璧な御配慮に脱帽です。神と人間の世界、ぴんぴんころりというお考え、これからも考えていきます。

先生宅（温かいストーブ）

温かいもてなし（ホスピスケア）

会が発足して16年目になります。 初心を想います。
雑巾を縫いながら『一針一針に心を込め、一瞬一瞬を大切にできる
人生を送りたい』これがホスピスケアだねとみんなで話合いました。

今を大切に生きながら「いい人生だったね」と言えるように、それぞれの立場（患者 家族 遺族 医療者 宗教家 ボランティア）で互いに温かいもてなしをして支え合いたいと願いました。

その後岡崎にも緩和ケア病棟が設立され、ティーサービス・アロママッサージ・演奏などのボランティアをさせていただきながら毎回不安で「迷惑だった患者さんもあるんだろうな」ごめんなさいねと祈るような気持ちになります。

総会の返信はがきから「お手伝いが、何もできなくてごめんなさいね」という声を頂きます。
ボランティアをしながら不安なのに、「できなくてごめんなさいね」という言葉に勇気をもらい助けられます。なぜだろう。静かに考えました。

そうだ！「ごめんなさいね」というこの“目に見えない温かいもてなし”こそが、ホスピスケアの原点だったと改めて気づかされました。ありがとうございました。

それぞれのボランティアに、次のようなルールをつくっています。
それよりも前に自然 家族 友 会員のみなさん 患者さんや医療者から、温かいもてなしを充分うけていることをいつも感じて生きていきたいですね。（橋詰清子）



“緩和ケア病棟ボランティア”のルール

ティーサービス・アロママッサージ・季節の模様替え・楽器演奏
毎週金曜日1:30~4:30 緩和ケア病棟ボランティア室
アロママッサージ 第1・3・4木曜日1:30~3:30 練習第2木曜日1:00

「患者さんの温かいもてなしに応えられますように」

1. 時間厳守
2. 清潔な髪、手、服装
3. 無駄話をしない
4. ここであった出来事は家族にも話さない
5. 心と身体が健康でないときは休む
6. 身体介助はしない

※ティー マッサージの見学も募集しています



“手縫い”のルール

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を作り届ける。
・第2火曜日 10:00~12:00 愛知病院外来病棟患者サロン・各自宅

1. 針、はさみ、糸などは持ち込まない（会で用意したものだけを使う）
2. ミシンは各自宅で使う

※タオルが不足しています。ご寄付をお願いします。



“つどい”のルール

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり
第3木曜日 10:00~12:00 事務局（橋詰宅）

1. ここで聞いたことは他所で話さない
2. 互いに指導をしない ※どなたでもおいでください。送迎します。電話 090 8820 0993